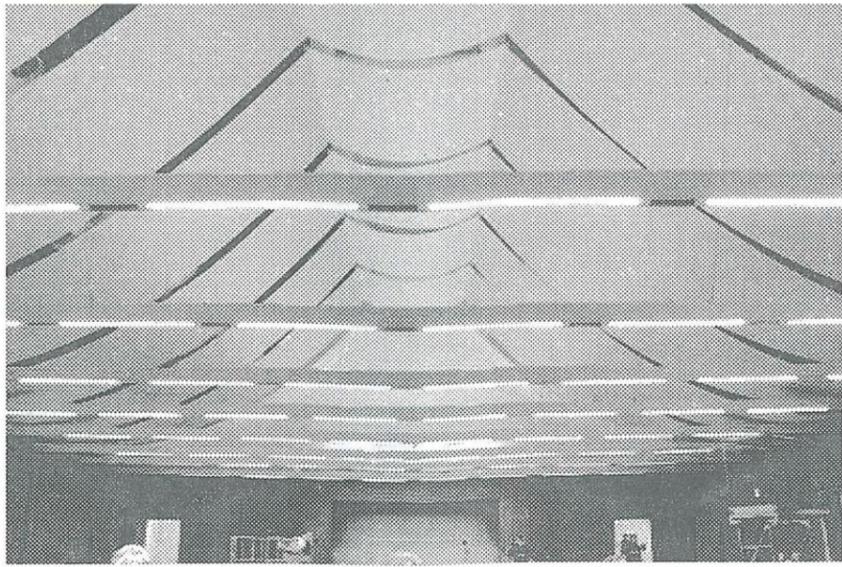


トップライズ、トニー

膜天井共同売り込み

一貫施工の強み生かす

内外装工事のトップライズ(大阪府中央区、池田富洋社長)と膜天井材のトニー(神奈川県大和市、島田敏秋社長)は、不燃の膜材料を利用した商品群「安全安心天井シリーズ」の本格営業に乗り出す。軽くて割れない膜材料は、万が一落下しても人的・物的な被害を極力抑えられ、安全な空間の確保に高い効果が見込める。トップライズが持つ全国規模の営業チャンネルと一貫した施工体制の強みを生かし、施工、設計事務所、ゼネコンなどに売り込む。



軽量化で安全安心を追求した膜天井

両社は2月に業務提携。トニーの膜材料に関する技術ノウハウを生かし、今後起こりうる大地震に備えた商品の開発を共同で進めてきた。ラインアップした商品群のうち、現場施工タイプのパネル膜天井は、ロール状のクロスを先行施工したフレームに取り付ける。フレームが圧倒的に少なく、下地材を最小限に抑えることで、脱落によって重要な危害を生ずるおそれがある特定天井には当てはまらない2

キタノ/平方メートル以下を実現した。パネルタイプは、工場で作製されたガラスクロス素材の軽量天井パネルを現場で取り付けるもので、従来の金属パネルに代わる商品。インクジェット印刷で木目調や金属パネル調といったガラスクロスとは思えないパネルを実現した。防煙膜垂れ壁は、東日本大震災で落下した事例が見られた従来の板ガラス製防煙垂れ壁に代えて、ほぼ10分の1程度の軽量なガラスクロス製シートを使って安全性を追求。室温変化に伴うクロスの収縮に追従するシステムを搭載し、しわが発生しにくいように工夫した。光膜天井も、アクリルやガラスといった従来の照明カバーに代わるガラ

パネルで可能にした意匠性を売り物にする。これら商品群の施工には、トップライズの責任一貫体制の下、複数の専門業者が現場に入ることなく、「当社の施工チームで対応は可能」(池田社長)という。両社は、地震に伴う天井の落下が懸念される中、膜技術を利用した軽量の商品群のメリットを最大限に生かし、商業施設のような大規模な空間や災害時の避難場所となる学校の体育館などをターゲットに営業を展開。建築物に対する安全ニーズを取り込みながら、売り上げ増に寄与する商品に育てていきたい考えだ。